



元吉原小児童会
えがオン

元小は
今年創立
150周年！

しょうらい 松籟



富士市立元吉原小学校
学校だより
学調結果報告特集号
令和6年10月28日

4月18日に、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象として、教科に関する調査（国語・算数の2科目）と学習状況についての質問調査が実施されました。

今回の学校だより特別号では、本調査結果からわかった元吉原小学校の学習状況や課題をふまえ、これからの授業改善の視点やご家庭との連携についてお知らせします。

全国学力・学習状況調査とは

文部科学省や教育委員会が全国の小学校6年生と中学校3年生の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証して改善を図ることが目的です。学校には、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることが求められています。

この調査は、教科に関する調査と、生活習慣や学習環境に関する質問調査で構成されています。教科に関する調査は、「知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるもの」という新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎知識と活用力を一体的に問うように構成されています。

本校の調査結果と課題

1 学習状況調査の結果から

<よいあらわれ>

※当てはまる・どちらかといえば当てはまるの割合の合計

質問項目	元吉原小	全国（公立）
友達関係に満足していますか。	95.8%	91.1%
PC・タブレットなどのICT機器の活用について。（友達と協力しながら学習を進めることができますか。）	100%	87.1%
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題解決に取り組んでいますか。	98.0%	91.6%

本調査結果から、本校の児童は「友達関係に満足している」「友達と協力しながら課題解決に取り組むことが楽しい」と感じている割合が、全国平均よりも高いことがわかりました。また、学びを支えるICTの活用も進み、友達と協力して学び合うときや、それぞれが自分の理解を深めたいときにICTが効果的に使われていることが確認できました。これからも、子どもたちが仲間とともに楽しく学び、成長できる環境づくりに努めてまいります。日々の活動を充実させながら、子どもたちの可能性をさらに広げていきたいと考えています。

<課題>

※どちらかといえば当てはまらない・当てはまらないの割合の合計

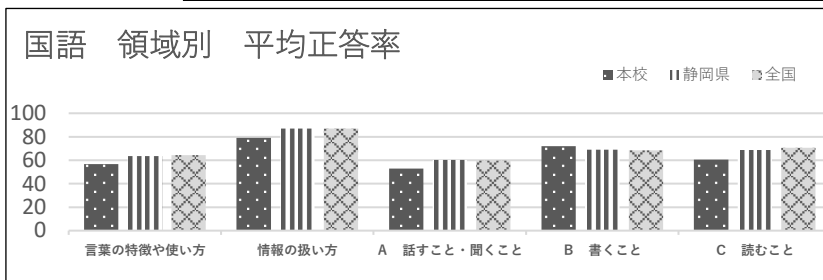
質問項目	元吉原小	全国（公立）
土曜日や日曜日など学校がお休みの日に、1日どれくらいの時間、勉強をしますか。（1時間以上）	31.3%	48.6%
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。	62.5%	61.1%

「自分の考えを発表することに充実感を感じている」と62.5%の子どもたちが全校平均よりも高い割合で答えていました。一方で、37.5%の子どもたちはまだ工夫して発表することが難しいと感じていることもわかりました。本校では、毎日の授業で協力して学ぶ場を大切に、楽しく学べる環境づくりを進めてまいりました。今回の結果を受けて、今後もより一層「協働で学ぶ時間」と「自分で学びを深める時間」をバランスよく取り入れ、土日のえがオン学習の見直しや、全員が発表の機会を持てる取り組みなどを充実させていく予定です。こうした工夫を通して、子どもたちが自分で考え、課題に取り組む力を育んでいきたいと考えています。これからも子どもたちが自分の良さを発揮し、夢や目標に向かって進めるよう、学校全体で支援してまいりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

2 教科に関する調査の結果から

(1) 国語

「書くこと」の領域は全国以上に。それ以外は全国平均を下回る。



上のグラフは、国語の内容ごとの正答率を示しています。国語の「書くこと」の問題では、静岡県の平均より上回る結果となりました。目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかを問われた問題では、たてわり遊びの良さと、下級生に聞いたこと、この2つを整理して、自分の考えが伝わるように書くことができました。(右の問題)

一方で、4つの領域では全国平均を下回る結果となりました。特に、「言葉の特長や使い方」と「話すこと・聞くこと」の分野に課題があることがわかりました。具体的には、漢字の適切な使い方や、話し手の意図を的確に理解する力に、改善の余地があるとわかりました。この結果をふまえ、今後の国語の授業では以下の点に重点を置いて指導してまいります。

- ・漢字の意味理解と文脈での活用：日々の漢字練習だけでなく、文の中での使い方にも目を向け、言葉の意味や使い方についての理解を深めていきます。
- ・聞く力の育成：相手の意図を理解する力を養うため、ペアやグループ活動を通じて意見交換の場を増やし、話し手の意図をしっかりと捉える練習を重ねていきます。これにより、子どもたちが「聞き手」としてのスキルを高められるようサポートしていきます。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」
わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

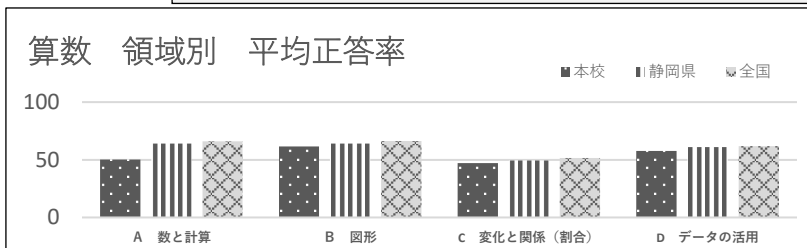
「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生にたてわりはんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、きょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょにたてわりはんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをくねらせるようにしています。

国語：大問2より

(2) 算数

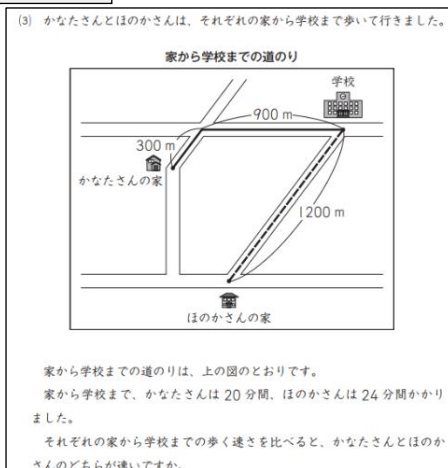
特に「数と計算」と「変化と関係」の問題に課題



算数において本校は全体的に全国平均を下回る結果となり、特に「数と計算」および「変化と関係」の理解に課題が見られることがわかりました。

右の問題(変化と関係)は、本校25%(全国平均31%)と低い正答率でした。家から学校までの道のりが等しいとき、かかった時間に着目し、それぞれの速さを求める必要があります。「道のり÷時間=速さ」という公式を、日常生活で活用できるかという深い理解を問われる問題でした。この結果をふまえ、今後の算数の授業では以下の点に重点を置いて指導してまいります。

- ・数量や計算の基礎力強化：問題場面を正確に理解し、数量を式に表現する練習を重ねることで、基礎的な計算力と問題解決力を養っていきます。
- ・速さや距離などの概念の理解：「道のり ÷ 時間 = 速さ」などの公式の理解を深め、日常生活における場面で計算や判断ができるよう、実践的な問題や場面設定を取り入れた授業を行っていきます。



算数：大問4(3)の問題より1

今回の結果は、本校児童のさらなる成長のための大切な指針であると考えております。今後も学力向上に向けた指導を一層充実させてまいりますので、ご家庭でも、お子さまが日々の学びを大切に、自分の力を伸ばしていけるよう、あたたかく見守り、ご支援いただければ幸いです。